

知ってほしい！「四日市公害」のこと

よつ か いちこうがい きょう か しよ の よんだいこうがい
四日市公害は、教科書にも載っている「四大公害」と
もいわれる大きな出来事です。工場の煙は空気を汚し、息
をするのが苦しくなる病気になる患者が多く出ました。
それに立ち向かった人が裁判を起し、六つの工場が悪
い煙を出していたとして裁かれました。その裁判のお陰
で四日市の空や海はずいぶんよくなりました。



◆海の汚れ

四日市の海はどんどん埋め立てられていきました。いくつかの工場から、汚れた水が海にそのまま流れ出しました。しばらくすると、四日市の海では、油くさい魚や背骨が曲がった魚がとれるようになりました。



◆空気の汚れ — 「四日市ぜんそく」 —

工場では、体に悪いガスを煙突から出し、空気を汚したので、息をするのが苦しくなる病気(四日市ぜんそく)になる人が出ました。「息をするのがこんなにつらいのなら、もう息をするのをやめたい」と思うほど苦しいものでした。中には、苦しきのあまり自殺する人までいました。

また、工場は、家がたくさん集まっているところと、となりあって建てられたので、被害がより大きくなりました。

はじめは、工場群(第1コンビナート)に近い塩浜地区で発生しましたが、橋北地区に第2コンビナートができたり、高い煙突が造られたりして、空気の汚れが全体に広がり、このぜんそくは「四日市ぜんそく」と呼ばれるようになりました。



◆四日市の工場 — 「コンビナート」 —

石油からいろいろなものを効率よく作るために、関連する工場を集め、材料や原料を送るパイプラインなどでつながった工場の集まりをコンビナートといいます。

四日市のコンビナートでは、外国からタンカーによって運ばれてきた原油を、パイプラインで工場に送り、様々なものに形を変え、また他の工場へと送られていきます。コンビナートは、ロシア語で「結合」を意味します。



◆海をよごした廃硫酸って？

海上保安庁が取り締まったところでは、一つの工場で1日約20万トンものよごれた水(廃硫酸)が海にそのまま流されていました。

これは四日市市の小学校プールの水量が1校あたり約500トンですから、一日にプール400ばいもの廃硫酸が四日市港に流されたこととなります。廃硫酸によって、海が汚され、船はエンジンをいためてしまいました。写真は、取り締まりをした海上保安庁の田尻宗昭さんです。



◆「四日市ぜんそく」の原因 — 「亜硫酸ガス」 —

工場では、ねん料として石油（重油）をもやします。石油（重油）のなかには、いおう分がふくまれており、もやされることによって、亜硫酸ガスになり、それが主な原因で呼吸器の病気になります。

亜硫酸ガスは、空気より重い透明なガスで、目やのどを刺激し、体には悪いガスです。

◆「四日市ぜんそく」の患者さんって何人いるの？

現在、2012年3月、公害病認定患者と認められている人は約430人です。

これまでに、「四日市ぜんそく」の症状が出た人のうち、2216人が「四日市ぜんそく」の公害患者と認められました。公害患者は9歳以下の子どもが約900人でした。その4割（40%）が第一コンビナート近くの塩浜地区の人でした。

公害が原因となる病気かどうかの検査をしなかったり申しこまなかったりした人もいるので、もっともっと多くの人が「四日市ぜんそく」にかかっていたと思われる。

公害病認定制度は、空気がきれいになったとして1988年3月になくなりました。それまで毎年数十人が公害病認定患者となっていました。制度がなくなったその日から公害患者は出なくなるということではありませんので、その後も同じ症状の人も出ていますが、認定制度がないため、何人ということとは正確にはわかりません。



◆「空気の汚れを初めて裁いた」四日市公害裁判

四日市では、公害患者が増えるばかりなのに、新しく第3コンビナートの埋め立てや建設を行うなど、工場の拡大が優先されました。1967年9月、「俺らは何も悪いことしとらんのに、何でこんなに苦しい思いをせなあかんのや…このままでは死ぬしかない、裁判にかけよう。」と塩浜病院入院中の磯津の公害患者9人が訴えを起こしました。

訴えられたのは第1コンビナート6つの工場です。1972年7月に公害患者の勝訴判決があり、工場は判決を認めました。

四日市公害裁判のおかげで、公害を取り締まる決まりが作られていきました。



◆四日市でとれた魚は食べられるの？

今では、食べることができます。休日の海岸では、つりを楽しむ人もたくさんいます。一方では、磯津の漁師さんは四日市港近辺では魚が多くいないため、かなり遠くまで出かけていかなければなりません。磯津でとれる魚は有名でしたが、公害のせいで、磯津漁港がさびれてしまったため、とれた魚は、鈴鹿市の白子漁港に運ばれることが多くなりました。



◆四日市の空気はどうなったの？

ずいぶんときれいになりました。煙でおおわれることもなく、星空がきれいに見られるようになりました。天気がよければ、澄み切った青空が広がります。工場は、最新の装置をつけて悪いガスを出さないように気をつけています。

◆埋め立てられた四日市の海

四日市には、白砂青松の海水浴場があり、夏になるとたくさんの方が訪れていました。しかし、コンビナート工場を造るため、次々と埋め立てられていきました。四日市に残された海水浴場は、すべてなくなってしまい、コンクリートで固められた海岸ばかりになってしまいました。現在もまだ、海を埋め立てていく計画が残っています。

◆四日市公害から学べることは？

四日市公害は、人々の記憶から遠ざかっていきます。「そんなことは遠い昔のことだ」とか「もう青空が戻ったからいいんじゃない」とか「今さら騒ぎ立てるな」といった意見がでてきます。けれども事実（本当にあったこと）を消すことはできませんし、事実を事実として伝えていかない限り再び同じようなあやまちを繰り返してしまいます。

汚れた空気を吸うことで「四日市ぜんそく」になりました。呼吸をすることで病気になるということです。呼吸をしなければ生きていけません。せきをすれば「せきゴン」とまるで怪獣のように呼ばれた子がいます。夜通し咳が出て苦しい思いをしたため、学校を休むと「ずる休み」といわれた子がいます。公害は健康な子どもたちの心までもよごしていきました。「四日市ぜんそく」になってしまった子とその周りの子に何があったのか、ぜひ考えてほしいと思います。

◆四日市公害はもう終わったの？

四日市でも公害認定患者の高齢化が進んでいますし、これまで発症しなかった人も新しく発症しています。ところが、公害患者と認定する法律がなくなったので、新しく公害病の認定を受けられないという問題があります。

四日市公害を起こしたコンビナートは、昔と同じように、同じ場所に存在して、空気の汚れが全くなかったというわけではありません。



四日市再生「公害市民塾」

HP : <http://yokkaichi-kougai.www2.jp>

mail : saisei@yokkaichi-kougai.www2.jp

連絡先：四日市再生「公害市民塾」

四日市再生「公害市民塾」

検索

